

ヒトリシズカ

國 兼 治 徳

春、山あいの小路をたどると、林床にひっそりと数本群れて咲くヒトリシズカに出会う。折って持ち帰っても花はすぐ散ってしまい、あたら美しさを無駄にしてしまうのがおちである。山にある花は山で見るのが一番美しい。

私がこの花を知ったのは、中学・高校通しての英語の恩師佐藤信雄先生からである。先生は旧制滝川中学の開校当時の先生で、私の兄もお世話になった。私が十勝の高校から母校の滝川高校へ転動した時、佐藤先生は教頭をされておられた。母校に勤めるのは年令が高くなってからの方がよいと考えていたが、全日制に出るチャンスでもあったので、請われるままに教師になって6年目にして母校の教壇に立つことになった。私は高校の前に住んでいたのが割合早く出勤したが、佐藤先生はすでに校内を見回り勉強されていることが多かった。ある朝、先生はしきりと英語の辞書をひいておられたので、無駄にも「先生のような方で辞書をひかれるのですか」と話かけたところ、「アクセントだけは間違えといけないから調べておくのです」と答えられた。こと英語に関しては、全道で指導的立場であった先生の姿勢に強い衝激をおぼえたのである。又、移動PTAで帰りが夜になり、星を見ながらバスを待っていた時、私がなにげなく「きれいな星空だが、星は何もわからない」とつぶやいたところ、先生が「私は星が少しわかるのです。前に英語の教科書に星のことが出てきたので、星を何も知らないで扱うのはいけないと考えて、毎晩星座をみていたら段々にわかってきました」と申された。私はこのなにげない先生の一言が忘れられない。教師のあり方を教えていただいた。私は最近機会があって大学の教育実習生に「教壇実習の実際」というテーマで話しているが、その折佐藤先生の英語の教材にのぞむ姿勢を紹介することになっている。

先生が退職されてからも同僚と先生のお宅を時々訪問した。ある時、「神社の裏にヒトリシズカが咲いていましたが、今はどうなっているだろう」

と云われた私はその時はじめてヒトリシズカを耳にしたのである。それ以来、ヒトリシズカという優雅な名前の植物が忘れられないものになった。又、同時にこの花は佐藤先生を連想させるのである。

さて、道内にはセンリョウ科の植物が2種自生する。1種はヒトリシズカであり、他はフタリシズカである。ヒトリシズカに比べると、フタリシズカはあまり見かけない。花期がずれていることもあってか、フタリシズカの咲く7月頃は学校が忙しく、私自身春先ほど山に行かない所為かもしれない。それにしても良い名前をつけたものである。いずれも静御前にまつわる話から、名付けられたらしい。ヒトリシズカは花穂1本の意味とわかりやすいが、私は吉野で奥州へ落ちのびる源義経と別れて、1人京へもどる静御前をおもんばかる。前に修学旅行で吉野へ行ったことがある。その折義経・静御前ゆかりの吉水神社などを見学したが、京都からはかなりの距離である。どこまで真実かわからないが、静御前が京都から義経に会いに来たことを考えると、花のヒトリシズカは弱々しすぎる感じがしないでもない。

「野幌森林公園に行った時のこと。」



若 林 いづみ

私は、森林公園には、何回も行ったことはあるけれど、植物友の会で行った所は、私は、一度も、行ったことはありませんでした。初めてだった、ひとりしずか、たくさんいたおたまじゃくし、私は、友の会には行ってとてもよかったと思います。ひのまさんもよくしてくれました。それに、いろいろなうたを、教えてくれました。私はこんどの『滝野すずらん公園にも行きたいなあ。』と思いました。そして遠足の時もここに来たので、みんなにいろいろな花を、おしえてあげました。友の会に行っていたので、「いろいろな、花しているね。」といわれました。とてもうれしかったです。私は、ずーっと植物友の会に行っていたいです。

(おわり)